

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500521		
法人名	有限会社 暮らしの里		
事業所名	グループホーム 暮らしの里		
所在地	千葉県千葉市緑区大膳野町4-141		
自己評価作成日	令和3年10月1日	評価結果市町村受理日	令和4年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7
訪問調査日	令和3年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が安心して生活できるようにコミュニケーションを大切にし、信頼関係が築けるよう努め、家庭的で穏やかな日々を送ることができる環境づくりに努めています。
 午前中:日付・天候の確認、本日のニュース、今日は何の日?を題材に話しを展開したり、午後:レクリエーション活動に力を入れ、活気あふれる日々を提供しています。コロナウイルス等で外出制限をする中で、運動不足や下肢筋力等の低下を防ぐ目的で、苑内歩行をリズムカルな曲に合わせてテーブルの周りを歩行しています。利用者が誰でも参加できるよう行事企画にも力を入れ、外出制限のある中、「不十分を感じないよう」「ここに来てよかった」と思ってもらえるように努めています。そのためにもスタッフ間での情報の共有も大切にし、気づいたことや意見等を発信しやすい職場環境であることにも、尽力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新型コロナウイルス感染症の対策を適切におこないながら、ホームが出来ることを考えている。外出制限のある中で、ホームの敷地内の散歩、日光浴しながらの会話、季節を感じられる草花を観ることなどを日課にしている。管理者、職員は、利用者が生活の中で「やりがいのある役割」を持ち、個性を出せるように個々に合わせた支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人の個性を尊重しながら、家庭的で穏やかな日々を送る事ができる環境づくりという理念を守るべく、利用者様の個性の把握、それに伴った対応方法を常に検討し、安心して生活できるよう努めます。	理念及び方針等を明確化し、職員及び利用者等に分かりやすく伝えて、利用者本位の介護、生活に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス対策として近隣への散歩等は中止しております。	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、依然と比べ地域との交流や外出機会は減っているが、できることを適切に実施するように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス対策で運営推進会議は書面開催としております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様、入居者代表、民生委員の方、自治会長、千葉県あんしんケアセンターの方々に開催のご案内(書面開催の旨)でお知らせし、ご意見やご要望をお寄せいただけるように記入用紙を郵送し、返送をお願いし参考にさせていただいております。	運営推進会議は、書面による情報収集と情報発信をしている。寄せられた意見や要望を把握し、事業所運営に反映させ、サービスの質の向上に活かしている。地域の中で安全と安心を保ち、利用者本位の生活を支援できるように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	色々な面(災害時含む)において連絡を取らせていただき、実情報告や情報を得たりしています。(メールでのやり取り含む)	市町村担当者との連携や協力、情報交換は、法人代表者が中心となり適切に実施している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を年間研修計画に含み、毎月のミーティング時に必ず実施しております。各フロアの出入口は施錠を行っていますが、玄関と思わず開けてしまっ出てしまう方もおられることをご家族等にも理解して頂いています。	身体拘束等の研修は定期的を実施し、法令遵守、組織で定めたルール等を遵守している。利用者一人ひとりの特性に合わせた介護・支援を個別介護計画やマニュアルにそって実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を年間研修計画に含み、毎月のミーティング時に必ず実施しております。また、利用者様に対しての言葉遣いやプライバシーを侵害するような言葉も注意するように日頃から話しています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用されている入居者様も増えていきますので、制度についてや役割などを学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に家族やご本人にホームを見学して頂いておりますが、難しい方には、その方に面会させて頂き、十分な説明と不安な気持ちを聞くようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	一定条件での面会時に近況報告させて頂いたり、何か変化があった時には、電話連絡にて報告させて頂いております。その中では、一方的にならないように、ご家族の意見やお話も聞くように努めています。	利用者及び家族等の意見や要望は個別介護計画に反映するようにしている。コロナ禍もあり、面談等は一定の条件を設けている。電話や手紙による報告、連絡を実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティング時に職員からの意見の場を設けています。また、毎朝の申し送りでも些細な気づきでも報告し、その場で検討しています。管理者と職員との個人面談も実施しています。	定期的な職員会議、毎朝に申送り(ミーティング)、日常のコミュニケーションにより職員の意見や考えを共有し、事業所運営、個別の生活支援、介護に活かすようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務態度等については、代表者に報告し給料の見直しに反映しています。業務上の取り組みで、良い点または改善点もすぐに話せるようにし、評価に繋げています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれ得意分野を活かした役割を持ってもらい、お互いに感謝の言葉を述べるようにしています。また、資格等の取得も推奨しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入居・転居の際、交流を持った同業者の方々とは、情報交換を含め、その後も何かあった時には互いに声かけをし、サービスの質の向上するべく努めています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談では、ご本人からの話を参考に、不安や要望をさぐり、入居当初は関わり合いを多くすることで、安心して過ごせるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っている事とご本人が困っている事とは違う事もあるので、場合によっては、ご本人に聞かれないように電話などで話すなどの配慮を行い、信頼関係に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要か面談のときに検討し、提案させていただいています。また、他のサービス利用に関しては、負担料金等も含めて必ず説明するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にスタッフからの態度や言葉が上から目線にならないように注意しています。世話をする、世話をされるという思いではなく、お互いに出来ないことを補うという気持ちで努めるように話をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からご本人の若い頃の話や聞いた、写真を見たりどんな父親、母親だったかなどを伺い、ご家族の思いやご本人の生き方を理解するようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナウイルス対策等により、面会等については知人や友人の訪問に関しても一定条件があります。	コロナ禍の影響もあり、対人面談や馴染みの場所等への訪問は控えている状況である。利用者の方の大切な人や場所を家族からの情報をもとに把握し、関係性が途絶えないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の食事の席でも、一人一人の性格を把握し、争いを回避できるように配慮したり、誕生日などを共に祝うことで、より良い関係を築けるよう配慮しています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了し、入院中や他施設に転居された方も、近況報告を報告して下さったり、相談にも応じるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	改めて話を聞くと、緊張されるため、日頃のコミュニケーションや会話を大切に、その中から希望や意向を引き出すようにしています。把握した情報は職員間で共有して活かせるようにしています。	日常の会話、表情から意向をくみ取るように努めている。職員間で情報を共有し、できるだけ本人の希望を、叶えられるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居後において、ご本人やご家族に話を聞いたりして、生活歴を把握し、会話のきっかけや笑顔の引き出しに繋げています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々人のペースを大切にしながら、その方に合った方法で、現状維持ができるように支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス前に、ご家族やご本人の意向を確認しています。カンファレンス時は、職員の意見も聞きながら現状に即した介護計画を作成するように努めています。	介護計画は、本人、家族の意向を踏まえて、毎月のカンファレンスでモニタリングチェック表を用いて検討し、計画作成担当者が作成、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には、行ったことだけを記載するのではなく、いつもと違うこと、話された事、スタッフがいつもと違うと感じた事、気づいた事も記載し、報告するように指導し、介護計画の見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況は、面会時に伝え、変化があるときには電話にて報告し、対応に関しては一方的にならないよう、一緒に考えていくようにしています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス対策で地域資源等の利用はできていません。町内会からの回覧板での情報はご利用者様にも伝えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員の了解を得て、内科系の往診対応を行っています。他科受診に関しては、ご家族の希望を聞いて、ご家族受診をお願いしています。緊急時は、ホームスタッフで対応しております。	利用開始時に、本人、家族の同意のもと、往診医との契約をして、月2回の往診により、健康管理をしている。専門医の受診が必要な場合は、家族の同行で受診している。緊急時、家族対応ができない場合は職員が支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置はありません。状態変化に関しては、主治医に報告し指示を得ています。緊急時は救急搬送にて、協力病院等に受診しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、介護サマリーを記載し、連絡を取って頂きやすいような関係を築いています。入院中は、ご家族に病状を確認し、了解を得たうえで、病院にも連絡し、退院後の生活の注意点も伺ったりしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在はターミナルケアは行っていません。入居前の見学時点でそのことはお話し、過去の方々の例をあげ、説明をしています。	終末期の対応について、見学に来所時、入居契約時に看取りをしていないことを説明している。看取りについて悩む家族には、事例を基に丁寧に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や連絡方法について伝えています。特に、注意が必要な方がいる場合は、再度連絡用のノートに記載し、口頭でも必要な事柄は説明し、誰もが対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の他、あらゆる想定での訓練の年間計画をたて、実施しています。また、備蓄品等の有効年月日等もチェックしています。	消防署指導の下で年2回、その他夜間想定、自然災害、停電を想定した訓練などをおこなっている。食料、飲料水、LEDライトなどを備えている。	近年は想定外の災害が多発している。あらゆる事態に備え、引き続き、訓練の実施、地域連携の強化が期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることをいつも念頭において、尊敬の念を持った態度で接し、言葉かけや言葉遣いにも注意を払うよう話しています。	声掛け、言葉遣いに気を付けている。居室入室時にはノックをして、本人の了解を得ている。入浴時の脱衣室利用については、男女の時間が重ならないように調整している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で、スタッフが決めてしまわないよう、選択できるような声掛けを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活で、助言やアドバイスとして口添えする事はありますが、過ごし方の無理強いはしないようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方にあった服装になるように、衣類整理を一緒に行ったり、好みの衣類・ファッション雑誌等を見たり聞いたりしています。(現在:買い物代行)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節ごとの行事にあった食事の提供の他、麺の日・パンの日・食べたいもののリクエストを聞いて、提供しています。時には準備や片付け等ができる方はスタッフと一緒にを行っています。	配膳、下膳など、出来る利用者は職員と一緒にこなっている。季節ごとのお花見膳、おせち、お節句など、意見を聞きながら食事が楽しめるように工夫している。毎月5のつく日は、利用者も一緒に調理を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量はその都度チェックして、一日のトータル量を計算しています。体重や健康診断での結果を考慮して、個々の適量を決めて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや促しだけでできる方、自分でできるけどずっと傍についていないとできない方などいますので、統一した介助ができるようにしています。必要に応じて訪問歯科の受診もしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の傾向を把握し、個々に合わせて支援しています。また、排便も毎日確認し、指示により丸2日及び丸3日出ないときには、翌朝の朝礼時に名前をあげて指示のある便秘薬(水薬含)の服用等をして頂いています。1日の水分管理の実施。	排泄のタイミングを職員間で共有し、トイレ誘導や声掛けをして、自立に向けて支援をしている。排便については、水分管理を徹底して、自然な排泄につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分量と日々の体操や苑内歩行により、体を動かすことも取り入れ、便秘予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日と時間帯は決めています。ゆっくりと入浴できるように時間は長めにとっています。また、入浴時間帯に不在だった方は、時間をずらして入れるように配慮はしています。入浴がない日には、清拭を行っています。	入浴は週2回、職員とゆっくりできる時間と考え、意向や意見を聞き取るようにしている。体調や気分で入浴できない場合は、タイミングをみて入浴支援している。入浴が無い日は全員清拭をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつもと比べて、疲れた様子や表情などを見て、適宜休息を進めたりしています。寝具もその方々の寝方の特性を見極め、ご家族にご用意していただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰しもが服薬状況が確認できるよう薬の保管ロッカーに指示・内容等情報を貼り付けています。また、薬の変更がある場合スタッフに申し送りし、アイパット記録にも変更の旨を記載し、変更後の様子確認も記録に残すようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことを活かして頂けるようにレクリエーション等に取り入れています。また、毎月楽しみと思っただけのような行事の企画も行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は新型コロナウイルス対策等により、外出や散歩はできていません。ただし、天候に応じて敷地内で日向ぼっこ等は行い気分転換をはかっています。買い物については、代行購入としています。	感染予防のため、遠方への外出は出来ませんが、日常的に庭を散歩して外気浴としている。現在は、買い物は代行でおこなっている。年間行事計画に沿って、近くの川沿いの桜、菜の花、鯉のぼりを車窓から見物している。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は原則禁止しています。どうしても持ちたい方には自己責任としていただいています。購入したい物がある時は、希望を伺って、買い物代行としています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親しい方と電話したい方には、原則的に携帯電話を持っていただいています。また、手紙やはがきのやりとりも支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアには季節に準じた飾りを行い、また、季節に合わせたちぎり絵も展示しています。生活のスペースは常に清潔であるよう清掃には力を注ぎ、整理整頓にも心掛けています。行事の写真等も掲示しております。	生花を飾るなど、季節を感じられるようにしている。共用空間は清潔で整頓されている。日当たりの良いところにソファがあり、利用者が寛いでいる姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様は気の合う方々とソファなどでくつろぎ話をしています。スタッフが間に入って仲をとりもったり、一人で過ごされていても孤独にならないよう声掛け等をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の生活動線にも合わせて、レイアウトを検討しています。殺風景な居室の方は、飾りなどを置いて、落ち着いたような空間づくりにも配慮しています。また、馴染みの家具や写真等を持ってきて、ご家族やご本人が配置等を決めています。	本人の馴染みの家具等は、動線を考えて安全な配置を職員と家族が考えている。写真や自分の作品を置くなど、自分らしい部屋をつくっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はシンプルな構造にもなっており、安全に過ごせるよう家具なども検討しながら配置しています。必要な時に貼り紙などもしながら、場所をお知らせして迷わないような工夫もしています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと